

事業報告書

(令和6(2024)年4月1日から令和7(2025)年3月31日まで)

1. 自然普及事業

自然環境の保全とその適正な利用にかかる調査研究、人材育成、普及啓発、顕彰、森林利活用の推進などの事業を行った。

(1) 調査研究事業

1) 阿寒川水系の水と森林に関わる調査研究

阿寒川水系の水と森林に関する調査を引き続き実施した。財団管理森林内を流れる阿寒川水系上流域における3河川(キネタンベツ川、チクショベツ川については平成16年度より継続、チュウレイ川については、平成27年度より継続)で降雨量、流量、土砂濃度等の調査を実施した。なお、調査実施にあたり平成16年度に使用開始し、20年間経過した自動採水器(2基中1基)に故障が生じていたため、1基新規購入・入れ替えを実施した。

事業費

2,983,596円(予算額 3,133,000円)

2) 針葉樹一斉林に関わる調査研究

管理森林内の3078林班には、最上部から続く西側斜面に、約25haにわたって生立する針葉樹の一斉林が存在する。その林分は、約120～130年前に大規模な攪乱後に一斉に再生した単層林で、亜高山性針葉樹林と位置付けられる。道内では、国有林において亜高山性針葉樹林の保護林の設定が行われ、林分動態の調査、研究が進められている。それらの調査、研究はほとんどが階層構造の発達した極相林で行われており、単層林である本林分はこれまで研究されてきた林

分とは大きく異なり、長期的な林分動態の調査は、北海道の亜高山性針葉樹林における林分動態や更新のメカニズムのさらなる理解につながることを期待される。

そこで、今後本林分を保存林化し長期的な調査研究を行うこととし、令和6年度は東京農業大学生物産業学部北方圏農学科と協同で調査計画の立案、および調査地の設定、調査（毎木調査、稚樹調査・林床環境の調査）を実施した。

事業費

0円（予算額 260,000円）

（2）人材育成事業

1）一歩園自然セミナー開催事業

当財団管理森林でアイヌ文化編と自然環境編を開催した。

① アイヌ文化編 「クチャ（仮小屋）作り体験とアイヌの狩猟文化」

内容：アイヌの人達の主要な食糧源であったエゾシカ等の狩猟や、山菜の採取などを行う際に用いられてきたクチャ（仮小屋）作り体験と、アイヌの狩猟文化についての講演を通じ、アイヌの文化について学んだ。

日時：9月29日（日）

講師：本田 優子氏（札幌大学教授）

秋辺 デボ氏（阿寒アイヌ工芸協同組合専務理事、アイヌ文化アドバイザー）

参加人数：9名

② 自然環境編 「阿寒の森でコケの世界に触れる」

内容：阿寒湖温泉街に隣接しながらも、北海道の原風景を色濃く保つ豊かな森林を体験しながら、コケの

視点から自然について広く一般にも理解を深めてもらうことをテーマに実施した。

日 時：10月26日（土）

講 師：内田 暁友氏（植物研究家、元知床博物館学芸員）

参加人数：20名

事業費 442,770円（予算額 913,000円）

2) 前田奨学金助成事業

高等学校以上の就学能力がありながら、経済的理由により進学が困難な者に対し、広く高等教育を通して自然環境の保全などに関する知識の習得を促進するため、昨年度に引き続き、釧路市前田奨学金に対して助成した。

事業費 1,000,000円（予算額 1,000,000円）

(3) 普及啓発事業

1) 観察会開催事業

自然観察支援事業（特別支援事業を含む）

当財団管理森林内において、北海道教育大学附属釧路義務教育学校「自然環境教育協働プロジェクト」と連携し、2年～6年生を対象に、森林、河川、野生動植物、水生生物、昆虫等を題材に、教科教育と連動した自然体験プログラムを実施した。

事業費 902,644円（予算額 484,000円）

2) 自然環境保全活動助成事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する活動、刊行等の事業に対して助成を行った。

○令和 6 年度助成採択者

	団体名	助成対象事業内容	助成額 (円)
1	NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク	子供たちに身近な自然への興味と好きになってもらうために、交通事故や有害駆除されたシカやキツネ等の骨格標本の作成、林中での動物探索を実施。作成した骨格標本はサロベツ湿原センターに展示。	209,100
2	盤溪癒しの里山づくりプロジェクト委員会	知的障がい者を支援する社会福祉法人の所有林を活動の拠点として、遊歩道の維持、植樹や危険樹木の伐採などの森林の保全活動を実施。森を活用し、利用者の情緒安定のための森林活動や地域住民との交流を実施。	200,000
3	十勝自然保護協会	アカエゾマツを主体とした阿寒富士西麓の森林は、低標高でありながら、イソツツジ等の高山性植物や蘚苔類が多く、凍土の環境にあることが推測されるが、この地域は風穴の調査が十分でないことから、後世に伝えるため、風穴と風穴による特殊な植生調査を実施、カラー写真を取り入れた報告書を制作。	600,000
4	CISE ネットワーク	豊かな自然環境を守り持続可能な社会を築くため、環境保全意識の普及啓発を目的に活動してきた 12 年間の成果やノウハウ、地域住民主体の活動を全国に普及することを目的に、シンポジウムを開催、トランクキット公開体験会を実施、事業成果報告書を作成。	500,000
5	サロベツでのびのび育てるママの会	国立公園のあるサロベツ地域で、豊かな自然の中で子供をのびのび育てることを目指しボランティア活動を実施中。設立後 10 年を経過し、老朽化してきた備品の更新、サロベツの四季を身近に感じられるような活動として春の散歩&ヒグマ講座や秋の森探検&生き物講座等を実施。	650,000
6	北海道大学総合博物館 昆虫ボランティア水生昆虫グループ	水生昆虫は、環境指標生物として重要であるが、北海道の水生昆虫の一般普及書は存在していない。本事業において水生甲虫を中心とした水生昆虫の同定が可能となるマニュアルの出版（150 部）を実施。活動の結果や知見を北大総合博物館での昆虫サロンや研究会の発表等で講演。	300,000
合計			2,459,100

○ 審査経過

令和 6 年 1 月 11 日 募集広報

令和 6 年 4 月 11 日 審査委員会開催（応募件数：道内外の団体・個人より計 23 件）

柴田 真年 氏（元（公財）北海道環境財団専務理事）

2, 770, 828円 (予算額 3, 318, 000円)

令和7年2月12日～14日（2泊3日）北海道教育大学釧路校 大学生16名

(イ) 「レクリエーション・健康の森」

自然志向への回帰から「一步園森の案内人」による森林散策等への関心が高まりを見せており、一部事業体において「一步園森の案内人」が不足している状況から新たな養成の要望があり、養成事業を昨年度に引き続き実施し2名を認定した。

「一步園森の案内人」が実施したガイドツアーによる今年度の入林者数は1,818名（日本人1,544名 外国人274名）で、昨年度の入林者数1,247名（日本人1,082名 外国人165名）と比較して増加している。

国別では日本人が圧倒的に多いが、外国人も増加傾向にある。

○「一步園森の案内人」の養成

- ・2名（事業体2名）
- ・令和6年度末現在「一步園森の案内人」は10名

○令和6年度「一步園森の案内人」による入林者数（令和6年4月～令和7年3月）

入林者数 1,818名（日本人1,544名 外国人274名）

外国人の国籍別内訳

中国102名 台湾50名 韓国23名 タイなどアジア21名

アメリカ40人 ヨーロッパ23人 その他15名

(ウ) 「研究の森」

東京農業大学生物産業学部との連携協定に基づき、財団管理森林内において、天然林やエゾシカをテーマにした卒業研究（学部4年次、3年次）に対する研究支援、および実習支援を実施した。

○ 研究支援

卒業論文 3 件に係る、財団管理森林の解説、研究フィールドの選定支援などを実施した。

卒業論文

- ・「道東の亜高山性針葉樹一斉林における 44 年間の樹木更新動態」
- ・「土壌への根系到達が倒木更新したエゾマツ稚樹の樹幹成長に及ぼす影響」
- ・「冷温帯林の林床における倒木上から土壌中にかけての無機態窒素動向の変化」

○ 実習支援

生態系保全学研究室所属学生（3 年生）、および北方圏農学科学生（1 年生）に対し、財団管理森林の案内および解説を実施した。

実施日並びに参加者

令和 6 年 6 月 28 日 東京農業大学生物産業学部生（1 年次 50 名）

令和 6 年 7 月 4 日 東京農業大学生物産業学部生（3 年次 15 名）

令和 6 年 7 月 5 日 東京農業大学生物産業学部生（1 年次 46 名）

事業費 606,778 円（予算額 892,000 円）

（4）顕彰事業

前田一步園賞事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する分野で活躍している団体・個人の優れた業績をたたえて前田一步園賞を贈呈した。また、一步園ジュニア自然環境賞については推薦団体が無く、該当団体なしとなった。

事業概要

○ 前田一步園賞顕彰者

- ・ 大河原 彰（中標津町） 中標津町教育委員会推薦

業績： 長年にわたり、中標津町に飛来する鳥類の調査活動が続け、鳥類の生態解明に寄与してきた。また、タンチョウの給餌用餌の栽培や給餌場の管理など周辺地域を含めた広域でのタンチョウの保護活動に尽力された。町の小中学生を対象に野鳥観察会を毎年開催し、次世代への自然保護思想の普及啓発活動に取り組み、後進の育成にも尽力された。

- ・ 帯広畜産大学ゼニガタアザラシ研究グループ（帯広市） 環境省北海道地方環境事務所

業績： 乱獲などによる個体数の減少が確認されたゼニガタアザラシを保護する目的で1982年に帯広畜産大学にゼニガタアザラシ研究グループが発足し調査が開始された。以後、人とアザラシの共存に向けて継続的に個体数調査などを行い、蓄積されたデータは環境省の「えりも地域ゼニガタアザラシ特定希少鳥獣管理計画」の策定に活用された。また、シンポジウムの開催、小学校や動物園で出張授業を行うなど普及啓発活動にも取り組んでいる。

○ 一步園ジュニア自然環境賞顕彰者

一步園ジュニア自然環境賞及び一步園ジュニア自然環境賞奨励については該当団体なし。

事業費 1,951,873円（予算額 2,568,000円）

○ 審査経過

令和6年 6月17日 候補者推薦依頼（環境省、北海道、市町村、市町村教育委員会）

令和6年10月31日 審査委員会開催

（推薦件数：前田一步園賞2件、一步園ジュニア自然環境賞0件）

令和6年11月16日 表彰式（ホテルポールスター札幌／札幌市）

- 審査委員
- 梶本 孝博 氏（（一財）前田一步園財団理事・審査委員長）
 - 大原 昌宏 氏（北海道大学総合博物館副館長・教授）
 - 大原 雅 氏（（公財）北海道環境財団理事長）
 - 柴田 真年 氏（元公益財団法人北海道環境財団専務理事）
 - 山本 麻衣 氏（環境省北海道地方環境事務所長）
 - 鈴木 英樹 氏（北海道環境生活部自然環境局自然環境課長）

（５）地域保全事業

阿寒湖畔地区におけるエコミュージアムセンターの活動に対して助成を実施した。

事業費 800,000円（予算額 800,000円）

（６）前田記念館管理事業

前田記念館および庭園の整備と保守管理を行った。

事業費 260,000円（予算額 560,000円）

2. 森林保全事業

基本財産である山林は、全域が国立公園特別地域、水源かん養等保安林及び鳥獣保護区に指定されており、公益的機能の維持・向上が強く求められている。このため、森林を適正に保全し、風致景観や野生鳥獣生息環境などの、森林のもつ多面的な機能を維持・向上するため、前年度に引き続き保全管理、人工林保育、天然生林改良などの事業を実施した。

(1) 保全管理事業

1) 巡視事業

山火事予防、入林者の危険防止、立木の盗伐防止のため、林内に巡視人や、林道入口に監視人を配置するとともに、阿寒湖畔沿いにある道有地の自然環境の保全などについて北海道と結んでいる「公有財産管理委託業務契約」に基づき、当該土地及び立木の管理に関する業務を実施した。

事業費	2, 1 6 4, 0 0 0 円 (予算額 2, 0 0 0, 0 0 0 円)
-----	---

2) エゾシカ食害対策事業

(ア) 「ビートパルプの給餌」、「囲いワナによる捕獲」、「樹皮防護ネット巻き」といった対策事業を継続して実施し森林被害防止に努めた。これらの対策とあわせて、エゾシカの被害状況や生息状況について、独自に調査するとともに、大学や研究機関とも連携して調査を実施した。

囲いワナによる捕獲事業実施にあたって、囲いワナは計7基運用した。なお、運用した7基の内1基にこれまでとは方式の異なる捕獲用扉落とし装置と通信機能付きの自動撮影カメラを設置した。また、他の4基に通信機能付きの自動撮影カメラを設置した。

令和6年度の森林被害防止対策において、別方式捕獲用扉落とし装置と通信機能付きの自動撮影カメラを設置した

罝いワナ（５基）に関しては、補助金（令和６年度エゾシカ森林被害防止強化対策事業）の交付申請を行い、同補助金を活用し実施した。また、令和６年度より新たに釧路市が森林環境譲与税を用いて開始した補助金（令和６年度釧路市エゾシカ森林被害防止強化対策事業）の交付申請を行い、同補助金を活用し給餌を実施した。加えて、令和７年１月１４日～３月２１日に捕獲したエゾシカ１６０頭中、補助対象の成獣１５２頭については、令和６年度鳥獣被害対策防止総合対策交付金を申請し、同交付金を受領した。

①給餌事業

給餌場、ワナ内の給餌

- ・春季：令和６年４月１日から令和６年４月１２日まで、餌場１０箇所、３１２個給餌
- ・冬期：令和６年１２月２４日から令和７年３月３１日まで、餌場６箇所・ワナ７基、１，５９６個給餌

給餌合計 １，９０８個（ビートパルプ １個６０kg、給餌総量１１４，４８０kg）

②罝いワナによる捕獲事業

令和７年１月１６日から令和７年３月２８日まで

ワナ数：７基、捕獲：２００頭（６７回実施）

③罝いワナ設置事業（冬期）

罝いワナの移設（１基）、落とし扉装置変更（１基）、通信機能付き自動撮影カメラ設置（５基）

④調査事業

- ・餌場における出没状況調査（１～３月）（東京農業大学実施）

（イ）令和２年１１月に設置された「阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会」（事務局：環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所）に構成員として参加（研修会、協議会）した。

事業費

17,659,100円（予算額 19,160,000円）

3) 林道事業

春の雪解け後の全山林道・作業道の支障木除去、ならびに既設の林道・作業道の維持管理（砂利敷、整地、土管入替を実施した。加えて、パンケ林道の補修を令和6年度を始期として今後10年程度の期間で実施することとし、令和6年度は3kmの砂利敷による補修を実施した。

事業費

6,497,000円（予算額 5,200,000円）

4) 調査事業

人工林保育・天然生林改良の計画立案に必要な林況を把握するための調査を実施した。また、調査に必要な資材を購入した。

事業費

1,239,000円（予算額 1,170,000円）

5) 危険木等処理

危険木・支障木等の発生が無かったため、事業の実施は無かった。

事業費

0円（予算額 500,000円）

(2) 人工林保育事業

1) 植樹祭事業

植樹祭に係る苗木の購入、地植えを実施した。

事業費

232,000円（予算額 300,000円）

2) 除間伐・枝打事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、人工林23.98haの間伐、8.90haの保育間伐および伐採木（143

m³)の搬出を実施した。また、作業道(450m)の新規作設を実施した。

(間伐施行地:3079-8,11、3080-11、保育間伐施行地:3080-17)

事業費 9,655,833円(予算額 12,100,000円)

(3) 天然生林改良事業

1) 誘導造林事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、7.53haの天然生林の樹下にエゾマツ・トドマツの苗木(4,600本)の植栽を実施した。また令和7年度植栽予定地7.59haの地拵えを実施した。

(植栽施行地:3119-11、地拵え施行地:3114-1)

事業費 2,800,000円(予算額 2,880,000円)

2) 誘導造林下刈事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、令和3年度～5年度の植栽地20.00haの下刈を実施した。

(下刈り施行地:3119-8,10,12)

事業費 1,128,000円(予算額 860,000円)

3) 天然生林間伐事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、75.44haの間伐、および伐採木(828m³)の搬出を実施した。

(間伐施行地:3079-8,11、3080-11、保育間伐施行地:3080-17)

事業費 17,832,333円(予算額 17,920,000円)

(4) 北海道電力ネットワーク（株）送電設備更改工事関連事業

令和4年5月から着手した北海道電力ネットワーク（株）の送電設備更改工事は、当初計画では令和4年度内にて完了することとされていたが、工事に遅れが生じ、令和5年度中に完了とする計画に見直し工事が継続された。しかし令和5年度においても工事の遅れが生じ、平成6年度も事業が継続された。財団管理森林内において北海道電力ネットワーク（株）が伐採した支障木の（1, 612 m³）の販売に係る仕分け・搬出を実施し、計画していた事業は完了した。

事業費 4, 411, 334円（予算額 7, 310, 000円）

(5) 国有財産買受事業

阿寒湖温泉中心部を横断する道路予定地（国有地）について、昭和30年代初めより占有し貸付を行ってきたが、近年、空地となるケースがあり、新たな貸付をすることが難しいと判断したことから、所定の手続きを行ったうえで当該敷地の買受を行い基本財産に組み入れた。

なお、買受に伴い、敷地確定のため測量を実施した。

1) 買受所在地 ①釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目3番240

②釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目3番241

2) 面積 ①121.29 m²

②628.31 m² 合計749.60 m²

3) 買受金額 6, 280, 000円

4) 測量費 840, 000円

事業費 7, 120, 000円（予算額 7, 120, 000円）

(6) 業務費

森林保全事業に係る「旅費交通費」、「諸謝金」、「雑費」。加えて、Jークレジット申請に関連する情報収集を実施した。

事業費

351,378円(予算額 1,170,000円)

3. 土地貸付事業

基本財産である土地(山林、宅地等)は、全域が国立公園特別地域、保安林、鳥獣保護区に重複して、あるいは単独で指定されている。さらに阿寒湖畔の土地は、国立公園集団施設地区に指定されているなど、公益性が強く求められている。

このため、土地の管理保全及び適正な利用を図り地域の振興に資するため、前年度に引き続き土地の貸付を行った。

(1) 土地保守・管理事業

財団所有地における土地の保守と管理を目的に、ボッケ遊歩道付近における風倒木や市街地において近隣家屋への支障や人的被害などの危険性が高い枯損木などについて整理伐採を実施した。

また、財団事務所前の木柵が老朽化による腐れを原因として、50メートルにわたり倒壊したことから、撤去・運搬並びに処理業務を依頼した。

事業費

1,853,295円(予算額 880,000円)

(2) 土地賃貸借事業

昭和30年代前半から使用していた国有地の取得に伴い、財務局の規則に基づく10年間分の既往使用料（賃借料）を釧路財務事務所に対し支払った。

事業費

934,788円（予算額 935,000円）

(3) 土地貸付

昨年度に引き続き、表3-1のとおり土地の貸付を行う。

（表3-1）土地貸付等状況一覧

契約区分	令和6年3月現在		令和7年1月現在		備 考
	契約件数	貸付等面積	契約件数	貸付等面積	
有償契約	202件	520,102 m ²	203件	520,339 m ²	電力会社送電線敷地41haを含む。
無償契約	20件	356,991 m ²	20件	356,991 m ²	北海道、釧路市、森林管理署、アイヌ協会外
計	222件	877,093 m ²	223件	877,330 m ²	

4. 温泉事業

財団が所有する源泉は、阿寒湖温泉のほぼ全域のホテル・旅館等に温泉を供給しており、その公益性が強く求められている。

このため、源泉及び温泉供給設備の拡充と安定供給体制をより一層強化するため、施設整備の更新を行った。

(1) 警報装置更新事業

停電や設備の異常をリアルタイムに把握するため、全ての源泉に設置している警報装置は、2026年に廃止予定のドコモ3G回線を活用していたため、2021年度より計画的に新たな回線へ更新を行ってきた。計画の最終年度となった令和6年度においては、新2号、新7号、神社、河田2号の4源泉の更新を実施したことから、全源泉における更新を完了した。

事業費 2,100,000円（予算額 2,100,000円）

（2）揚湯ポンプの拡充事業

各源泉共通の予備ポンプ（7.5kw×2台）を購入し、温泉の安定供給の確保に努めた。

事業費 4,250,000円（予算額 4,300,000円）

（3）インバーター制御盤整備事業

不具合の起きていた正次7号源泉のインバーター制御盤の交換整備を行い、温泉の安定供給に努めた。

事業費 3,850,000円（予算額 3,850,000円）

（4）正次7号源泉旧設備小屋の解体撤去及び整地工事

正次7号源泉の旧設備小屋を撤去し、整地と砂利敷を行った。

事業費 500,000円（予算額 500,000円）

（5）13号源泉及び河田2号源泉インバーター格納庫の塗装工事

平成20年と24年に整備された両源泉のインバーター格納庫の経年劣化が顕著であったため、屋根と外壁の塗装工事を行った。

事業費	400,000円（予算額	400,000円）
-----	--------------	-----------

(6) 17号源泉井戸元基礎工事

新規掘削した17号源泉の井戸元カバーを設置するため基礎工事を実施した。

事業費	110,000円（予算額	110,000円）
-----	--------------	-----------

(7) チップ川源泉廃坑工事

チップ川源泉の代替井戸である17号源泉の掘削完了に伴い、同源泉の廃坑工事を実施した。

事業費	120,000円（予算額	150,000円）
-----	--------------	-----------

(8) 13号源泉ケーシングパイプ及び11号・16号源泉インバーター修繕事業

13号源泉のケーシングパイプ内部が破損し、水中ポンプの挿入が困難であったことから、上山試錐工業においてカメラ検層を実施したうえで、対策と修繕を行った。

また、11号と16号源泉のインバーターに不具合が発生したことから、安川メカトロックにおいて検査と修繕を行った。

事業費	955,000円（予算額	0円）
-----	--------------	-----

(9) 源泉及び温泉供給設備の管理

令和7年1月現在の財団所有源泉数は15本（揚湯中11本、休止2本、観測井2本）である。昨年度に引き続き、令和7年度においてもこれら源泉及び温泉供給設備の管理保全に努める。

(10) 温泉供給

昨年度に引き続き、表４－１のとおり温泉供給を行う。

(表４－１) 温 泉 供 給 状 況 一 覧

供給区分	令和６年３月現在		令和７年１月現在		備 考
	契約件数	供給本数	契約件数	供給本数	
有償供給	62 件	291 本	62 件	290 本	
無償供給	3 件	4 本	3 件	4 本	北海道（阿寒湖畔診療所）等
自家用		3 本		3 本	暖房等財団諸施設
計	65 件	298 本	65 件	297 本	

5. その他

(1) ホームページ管理委託事業

ホームページ及び、入林申請システムの管理・更新等を委託した。

事 業 費

216,000円（前年度予算 216,000円）